

■除草剤：農業用

アッパレ[®] Z 1 キロ粒剤

登録番号：23719
 毒性：－
 消防法：－
 有効年限：3年

成分 ピラクロニル……2.0%
 プロピリスルフロン……0.90%
 プロモブチド……9.0%

物理的・化学的性状 類白色細粒

包装：1kg×12 10kg×1 40kg×1

◆特長

- ノビエ、SU抵抗性雑草（ホタルイ、ミズアオイ、アゼナ等）に高い効果を発揮します。
- プロモブチド配合により、特にホタルイに対して安定した効果を示します。
- 効果発現が速く、効果が長期間持続します。

◆適用と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ミズガヤツリ クログワイ ヒルムシロ	移植時	1kg/10a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回以内	2回以内	2回以内
	セリ エゾノサヤヌカグサ オモダカ コウキヤガラ シズイ アオミドロ・ 藻類による 表層はく離	移植直後～ ノビエ3葉期 ただし、 移植後30日 まで			湛水散布 又は 無人ヘリ コプター による 散布			
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ3葉期 ただし、 収穫90日前 まで						

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 使用量にあわせて秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように使用する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に使用するよう注意すること。
ミズアオイは1葉期まで、ホタルイは4葉期まで（但し、直播水稻は2葉期まで）、ウリカワは3葉期まで（但し、直播水稻は2葉期まで）、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは4葉期まで（但し、直播水稻は3葉期まで）、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く遅い発生のものまで十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では葉害が生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用をさけること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布すること。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (6) 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は、次の事項に注意すること。
 - ① 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分留意すること。
- (7) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けはていねいに行つこと。移植時または移植直後に使用する場合や未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行つこと。
- (8) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ・ 軟弱な苗を移植した水田
 - ・ 極端な浅植えをした水田
 - ・ 極端な深水となった水田
 - ・ 砂質土で漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）
- (9) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (10) いぐさ栽培予定の水田では使用しないこと。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の灌水に用いないこと。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。
特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◆安全使用上の注意

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

◆魚毒性

- (1)水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2)無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3)散布後は水管理に注意すること。
- (4)散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。